



第 125 回 イタリアの統一

1 イタリア統一運動

- ・ () の断絶以後、イタリアでは統一勢力が生まれず、小国による分裂状態となっていた。
- ・ さらに () の結果、北部がオーストリア領になった。

- ・ 19 世紀、フランス革命やナポレオンの影響によってナショナリズムが高まり、イタリアの統一や外国勢力の追放を目指す運動が盛んになった。
※イタリアにおけるナショナリズムの運動を、リソルジメントという。



マキアヴェリ
彼もイタリア
統一を願った
ひとり。



マッツィーニ
何度も出てくる。
第 120、123 回の
プリントを確認。

- ・ 1820 年、秘密結社 () が、ナポリとピエモンテ地方で反乱を起こしたが、オーストリアによって鎮圧された。
- ・ 1831 年、() が () を結成した。
→1849 年、二月革命の影響で、マッツィーニらは () の樹立を宣言した。
→フランスのルイ=ナポレオンの介入により失敗した。

2 サルデーニャ王国による統一運動

- ・ カルボナリや青年イタリアの運動が挫折した後、イタリア統一運動の中心となったのは、北西イタリアに勢力を持つ () であった。



カルロ=アルベルト

☆サルデーニャ王国 (1720~1861 年)

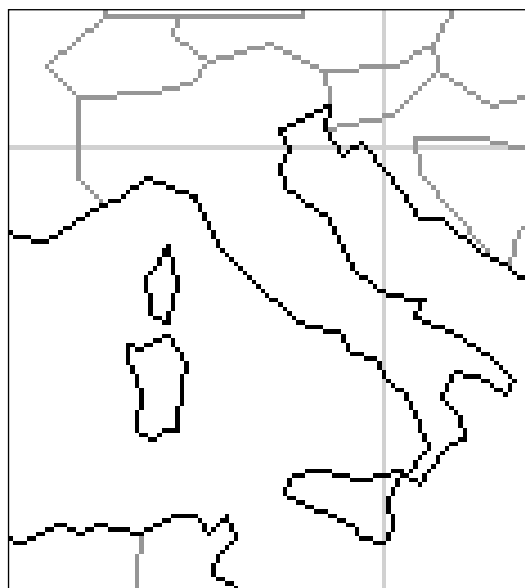
都… () ※イタリア北西部のピエモンテ地方にある

◆カルロ=アルベルト (在位 1831~1849 年)

- ・ 1849 年、カルロ=アルベルトは、イタリア統一を目指してオーストリアと戦争を開始したが、敗れて亡命した。



ヨハン=シュトラウス(父)
同名の息子が有名。
勝利したオーストリアの
将軍を称えてラデツキー
行進曲を作曲した。





ヴィットーリオ・エマヌエーレ2世
ものすごく気合いの
入った髭である。

◆ () (在位 1849～1861 年)

・宰相に () を起用して統一運動を進めた。

・1853 年に始まる () に参戦した。

→イギリス・フランスと組んでロシアと戦い、両国と友好関係を築いた。

・1858 年、フランスの () と () を結んだ。

※領土割譲の代わりに、オーストリアと戦う際に支援を受ける約束をした。

・1859 年、() を開始し、フランスの支援を受けてオーストリアに勝利した。

→ () のみを併合した。

→さらに当初の約束どおりフランスへ () と () を譲る
ことで、トスカナ地方など () の併合を認めさせた。



宰相カヴール

巧みな外交戦術で、
イタリアの統一を実現した。しかしその直後に急死したため、「神がイタリア統一のためにつかわした男」と呼ばれた。



フランス皇帝ナポレオン3世

イタリアの統一には、
かなり絡んでいる。イタリア統一戦争では、ウイラフランカの講和で、オーストリアと単独講和した。第 124 回のプリントを見ておこう。



ニース

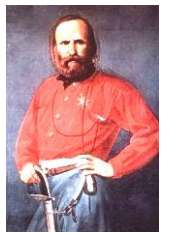
ニースは、地中海に面する有名なリゾート地であり、現在もフランス領である。ナポレオン3世の人氣はこのときあたりがピークか。

3 イタリア王国の成立

・ () は、 () と呼ばれる義勇軍を率いて
シチリア島を占領し、 () を征服した。

→ガリバルディは、征服した領土を全てサルデーニャ王国に献上した。

→イタリアの大部分がサルデーニャ王国の支配下に入った。



ガリバルディ
イタリア統一の三傑のひとりで、イタリアの国民的英雄。「赤」といえばこの人。青年イタリア出身。

☆ () (1861～1946 年)

◆ () (在位 1861～1878 年)

・1861 年、ヴィットーリオ・エマヌエーレ2世を王として、イタリア王国が成立した。

・1866 年、普墺戦争に乗じて、 () を併合した。

・1870 年、普仏戦争でフランスが敗れたため、フランス軍が駐屯していた () を占領した。

→翌 1871 年、イタリア王国の都を () にうつした。

→ローマ教皇は、「バチカンの囚人」と宣言し、イタリアと対立を続けた。

・イタリア統一後も、イタリア人の住む全ての土地が統一されたわけではなかった。

・ () やアドリア海沿岸の () はオーストリア領のままであり、これらは「 」と呼ばれた。

→これらの併合をイタリアは目指し続けることとなる。



ヴィットーリオ・エマヌエーレ2世
もちろん同一人物。
年齢を重ねて、髭も
落ち着いてしまった。